

非丁寧体の会話における アップシフトに関する日韓対照研究

金アラン*

(e-mail : kimahran@sophia.ac.jp)

<目次>

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. はじめに | 3. 研究方法 |
| 2. 日韓両言語のスピーチレベルと先行研究 | 4. 分析結果 |
| 2.1. 日韓両言語のスピーチレベル | 5. 考察 |
| 2.2. 先行研究 | 6. おわりに |

キーワード：日韓対照(contrastive study in Japanese and Korean), 敬語(honorifics), 非丁寧体の会話(conversations in the non-polite register), アップシフト(up-shifts), スピーチレベル(speech levels)

1. はじめに

日本語は発話場面や相手との社会的関係に基づいて、丁寧体と非丁寧体を使い分ける言語である。しかし実際には、一連の会話において、話し手が同一の相手に対して丁寧体と非丁寧体を混用することも少なくない。丁寧体から非丁寧体への切り替えはもちろん、非丁寧体から丁寧体への切り替えも見られ、前者はダウンシフト、後者はアップシフトと呼ばれる。

スピーチレベルシフトは、スピーチレベルが複数存在する言語で見られる現象である。日本語と文法的な類似点が多いことで知られる韓国語にも丁寧体と非丁寧体に二分される複数のスピーチレベルが存在し、その間でシフトが見られる。このようにスピーチレベルシフトは両言語で観察される現象であるため、日韓対照研究も行なわれてきた(金珍娥2002,申

* 上智大学言語教育研究センター、助教、日韓対照言語学

媛善2007¹⁾、李恩美2008)。しかし、いずれも初対面同士の会話における丁寧体から非丁寧体へのダウンシフトが対象となっており、非丁寧体の会話における丁寧体へのアップシフトに関する研究は見当たらない。

日韓対照研究のみならず、スピーチレベルシフトに関するこれまでの研究を見てみると、ダウンシフトに比べてアップシフトにはあまり注目が集まらなかった。それにはいくつかの理由が考えられる。第一の理由として、丁寧体を基調とした会話がなされる間柄で行なわれるダウンシフトは、対人関係の構築や維持にリスクを与えかねないのに対し、会話参加者間の親密度がある程度形成された後に行なわれるアップシフトは、対人関係の構築や維持へのリスクが低い。アップシフトは対人関係に大きな影響を与えにくいいため、ダウンシフトよりも積極的に扱われてこなかったと考えられる。第二の理由として、非丁寧体が基調となる自然会話を収集する際の会話参加者の条件を統制することが難しい点があげられる。例えば、同年齢の相手や年下に対して、非丁寧体を使用する間柄の会話は比較的収集しやすいが、年上に対して非丁寧体を使用できる間柄の会話は、収集するのが難しい。特に韓国語を対象とした場合、相手との年齢差によってことば遣いに変化が生じ、年下が年上に対して非丁寧体を使用する間柄は高い親密度が要求されるため、年齢に加えて親密度も統制しなければならない。このようにアップシフトを研究するには、データ収集における会話参加者の条件を揃える難しさが伴う。

しかし、スピーチレベルシフト現象は、ダウンシフトとアップシフトの両方を含む概念である。スピーチレベルシフト現象の全体像を把握するためには、ダウンシフトだけでなく、アップシフトについても明らかにしなければならない。本稿では、日韓語の非丁寧体の会話を対象として、どのような状況で丁寧体へのアップシフトが現れるのかを観察する。その際、話し手と相手の関係、発話内容、アップシフトによってもたらされる談話効果にも着目し、日韓語でどのような類似点と相違点が見られるかを明らかにすることを目的とする。

2. 日韓両言語のスピーチレベルと先行研究

2.1. 日韓両言語のスピーチレベル

まず、両言語におけるスピーチレベルの類似点と相違点を整理しておく。両言語はともに丁寧

1) 金珍娥(2002)と李恩美(2008)は初対面同士の一回限りの会話をデータとしているのに対し、申媛善(2007)は初対面同士の3回会わせ、会話内だけでなく、会話間でスピーチレベルの使用がどのように変化していくかを分析している。

寧体と非丁寧体のスピーチレベルが存在する点では共通しているが、相違点も少なくない。日本語は丁寧体と非丁寧体の一つずつ存在し、それぞれのスピーチレベルは、丁寧さの有無によって使い分けられる(益岡・田窪1992)。それに対し、韓国語は丁寧体と非丁寧体がそれぞれ複数存在し、前者にはhapnita体とhayyo体が、後者にはhay体とhanta体が該当する²⁾。韓国語のスピーチレベルは聞き手をどの程度に待遇するかという待遇度によって使い分けられる。국립국어원(2005)を参考に各スピーチレベルの待遇度について説明すると以下ようになる。丁寧体のhapnita体とhayyo体の違いは、hapnita体が聞き手を非常に高める言い方であるのに対し、hayyo体は聞き手を普通に高める言い方とされ、hapnita体の方が待遇度が高い。非丁寧体に属するhay体とhanta体は、hay体が聞き手を普通に低める言い方であるのに対し、hanta体は聞き手を非常に低める言い方とされ³⁾、待遇度はhay体の方が高い。両言語のスピーチレベルを対応させると〈表1〉のようになる。

〈表1〉 日韓語のスピーチレベル

| | 丁寧体 | | 非丁寧体 | |
|---|----------|--------|------|--------|
| 日 | 敬体 | | 常体 | |
| 韓 | hapnita体 | hayyo体 | hay体 | hanta体 |

〈表1〉に示した韓国語の4つのスピーチレベルは、さらに格式体と非格式体に分けられる。국립국어원(2005)によると、格式体は年齢や職業、地位などの与えられた社会的規範によって選択される文体で、聞き手に対する心理的距離感が表される。一方、非格式体は、格式を整えなくてもいいほど近い仲や親しい間柄で使用される文体である。韓国語の4つのスピーチレベルのうち、hapnita体とhanta体は格式体、hayyo体とhay体は非格式体とされる。丁寧体と非丁寧体をそれぞれ複数有している韓国語では、丁寧体間のダウン・アップシフトや非丁寧体間のダウン・アップシフトも見られるが、한길(2002)はこれを格式体と非格式体の混用とした。このように、韓国語は日本語よりスピーチレベルの数が多い分、シフトの現れ方もより複雑である。

本稿では非丁寧体の会話に現れた丁寧体に焦点を当てる。日本語の場合、「常体の会話から敬体へのシフト」のみがその対象となるが、韓国語では「hay体の会話からhapnita体へのシフト」、「hay体の会話からhayyo体へのシフト」、「hanta体の会話からhapnita体へのシフト」、「hanta体の会話からhayyo体へのシフト」の4つのアップシフトが理論上では

2) この他にhao体(丁寧体)とhaney体(非丁寧体)があるが、現代韓国語では特定の年齢、特定の話者が使用するスピーチレベルであるため、本稿では取り上げない。

3) ここでいう「低める」は丁寧体の「高める」に対するものである。

可能である。しかし、現代韓国語において非丁寧体で話される会話の基調はhay体である。よって、アップシフトといった場合には、「hay体の会話からhapnita体へのシフト」と「hay体の会話からhayyo体へのシフト」の2つとなる。本研究では、日本語における「常体の会話から敬体へのアップシフト」と韓国語における「hay体の会話からhapnita体へのアップシフト」、「hay体の会話からhayyo体へのアップシフト」を中心に対照を行なう。

2.2. 先行研究

スピーチレベルシフトに関するこれまでの日韓対照研究を見てみると、初対面同士の会話をデータとしたダウンシフトに関する研究(金珍娥2002,申媛善2007,李恩美2008)はあるものの、アップシフトに関する研究は見当たらない。そこで本節ではアップシフトに関する対照研究に先立ち、日本語・韓国語それぞれの言語で、アップシフトについてどのような説明がなされているかを概観する。

まず、日本語のアップシフトについてである⁴⁾。生田・井出(1983:81)によると、0レベル(尊敬、謙譲、丁寧語などが用いられていない表現)から+レベル(尊敬、謙譲、丁寧語などが用いられた表現)へのシフトは「心的距離の伸長、つまりあらたまった気持や、相手のプライベートな領域を侵さないという態度などを表わす」とし、「それによって発話をあたりさわりのないものにし、相手を傷つけずに談話を進めることができる」と述べている。三牧(1993,1997)はシフトの方向は談話の内容によって規定される傾向があり、深刻な内容を示す標識として機能する場合には0レベル(親密表現)⁵⁾から+レベル(疎遠表現)⁶⁾へのシフトが見られるとした(三牧1993)。また、対立・言い合いのように相手のフェイスを脅かすFTA(Face Threatening Acts)⁷⁾が行なわれる場面における+レベルへのシフトは、心的距離の拡大とともに重要部分の明示・強調という談話標識としての機能も果たしているとされる(三牧1997)。日本語記述文法研究会(2009)は、普通体基調の談話において聞き手に

4) 丁寧体の会話で非丁寧体へダウンシフトした後、丁寧体へ戻る時のアップシフトについては宇佐美(2001)、嶋原(2014)が言及している。

5) 三牧(1993)の「親密表現」とは、話し手と聞き手との距離が小さい場合に表現される待遇表現を指す。親密表現は、語レベルでは普通語、親密語、方言、俗語、流行語、隠語、幼児語、縮約形などで表現され、文法的文体レベルとしては、だ体で表現される。

6) 三牧(1993)の「疎遠表現」とは、話し手と聞き手との間の社会的・心理的距離が大きい場合に表現される待遇表現を指す。疎遠表現は、語レベルでは狭義の敬語(尊敬語、謙譲語、美化語など)、改まり語、普通語などで表現され、文法的文体レベルでは、です・ます体、ございます体、であります体で表現される。

7) Brown & Levinson(1987)によるポライトネス理論に基づく概念である。

対して働きかける文(例：依頼，勧誘，確認)や聞き手に対して意識が向かっていることを示すもの、話し手と聞き手の心的距離を遠ざけるもの、話し手の心の動き(例：ふざけ、遠慮の気持ち、賞賛、皮肉)を表すものは丁寧体で現れる場合があると述べた。最後に敬体と常体の使い分けを距離の接近化・遠隔化の観点から説明した呉泰均(2010)は、相手に何かを依頼する時や相手の緊張感をやわらげる時、嫌味・皮肉や強い意志を表出する時には敬体を用いて相手をソト待遇することで距離の遠隔化を図るとした。

次に、韓国語について見ていくが、韓国語のアップシフトに関する研究は이정복(2001)、장은숙(2005)に見られる程度でそれほど多くない⁸⁾。이정복(2001)は上下関係が明確な軍隊の会話をデータとし、呼称や敬語の使い方に注目しながらダウンシフトとアップシフトの両方に言及している。アップシフトに関する内容を見てみると、普段非丁寧体で話す相手に協力を得たい時や協力を得た時に丁寧体が使われるとした。また、話し手が軍隊の上司であると同時に教授であり、相手が軍隊の部下であると同時に学生である場合、軍隊の上司として話す場合には非丁寧体を、教授の立場から話す場合には丁寧体を使うことを指摘した。どの地位から発話するかによって、一連の会話の中でも丁寧体と非丁寧体が使い分けられていることを明らかにした研究である。장은숙(2005)は家族、友達、先輩・後輩、職場の同僚との自然会話を基に、ダウンシフトとアップシフトの両方を対象として分析している。同研究は、冗談などで会話の雰囲気を和らげるための戦略としてアップシフトが行なわれると述べた。

以上、日本語と韓国語のアップシフトに関する先行研究を概観した。先行研究によって、それぞれの言語におけるアップシフトの特徴が少しずつ明らかになってきているが、対照することで両言語の特徴がより明らかになると考える。本稿では、日韓語におけるアップシフトの現れ方を対照し、各言語で観察された特徴がその言語のみの特徴なのか、両言語でもに見られる特徴なのかを明らかにする。

3. 研究方法

本節では使用データと対象形式、発話のカウント方法について述べる。まずデータであるが、本稿では映画のシナリオと自然会話を使用した。映画の台詞は作られたものであるため、自然な会話とは言い難い。しかし、多様な場面や人間関係を分析する上で自然会

8) 유송영(1996)もスピーチレベルシフトについて考察しているが、アップシフトに関する具体的な記述はない。

話にはない利点がある。一方、自然会話は人為的な面が排除されたありのままの言語使用が観察できる。しかし、発話場面が固定され、会話参加者も限定されるため、場面や人間関係の多様性に欠ける。本稿では、映画と自然会話の両方を使うことで、双方の短所を補うことにする。

使用する映画は、日本の映画『いま、会いにゆきます』(2004)、『虹の女神』(2006)、『ハチミツとクローバー』(2007)の3本(計352分)と、韓国の映画『새드무비(sad movie)』(2005)、『미녀는 괴로워(200 pounds beauty)』(2006)、『청춘만화(almost love)』(2006)の3本(計344分)である⁹⁾。映画は、上映年度が近いもの、台詞が標準語であるもの、学校や職場など多様な場面が背景になっており、そこから生じる多様な人間関係による発話が抽出できるものを選んだ。

自然会話は以下のように設定し、録音を行なった。まず基準者を一人決め、その基準者に非丁寧体で話す同年齢の男性(男同)、同年齢の女性(女同)、年下の男性(男下)、年下の女性(女下)を連れてくるように依頼した¹⁰⁾。同年齢の男女は基準者に対して非丁寧体を、年下の男女は基準者に対して丁寧体を使う間柄であることを条件とした。基準者は4人と一対一で30分ずつ、計120分程度会話を交わした。男性2名、女性2名を基準者とし、4つのグループを作って録音を行なった。録音参加者の情報を以下に示す。〈表2-1〉は日本語、〈表2-2〉は韓国語の情報である¹¹⁾。

〈表2-1〉日本語の録音参加者の性別と年齢¹²⁾

| 基準者 | 相手 | |
|--------------|----------|---------|
| 日男1 (21歳) | 男同 (20歳) | 女同(21歳) |
| | 男下 (19歳) | 女下(20歳) |
| 日男2 | 男同 (20歳) | 女同(20歳) |

9) 例文の出典は次のとおり略記する。『いま、会いにゆきます』→『いま』、『虹の女神』→『虹』、『ハチミツとクローバー』→『ハチ』、『새드무비』→『새드』、『미녀는 괴로워』→『미녀』、『청춘만화』→『청춘』

10) 韓国では年齢による上下関係が日本よりも厳しく、年上に非丁寧体で話すには親密度がかなり高くなければならない。年上に対して非丁寧体を使用できる許容度が日本と韓国で異なる可能性があったため、会話の相手に年上を含めなかった。

11) 年齢は録音当時の情報に基づく。なお、基準者は全員大学生である。韓国語の男性基準者が20代半ばであるのは、韓国の徴兵制度によるものである。また韓男1の年齢が高いのは医学部生であることが関係している。

12) 基準者の出身地は日男1、日女1が東京都、日男2、日女2が千葉県である。日男1のグループは2011年11月中旬から12月初旬にかけて、日女1のグループは2011年9月初旬から11月中旬にかけて、日男2と日女2のグループは2012年4月初旬から5月下旬にかけて録音を行なった。

| | | |
|--------------|----------|---------|
| (20歳) | 男下 (19歳) | 女下(19歳) |
| 日女1 (21歳) | 男同 (22歳) | 女同(22歳) |
| | 男下 (19歳) | 女下(18歳) |
| 日女2 (20歳) | 男同 (20歳) | 女同(20歳) |
| | 男下 (18歳) | 女下(19歳) |

〈表2-2〉 韓国語の録音参加者の性別と年齢¹³⁾

| 基準者 | 相手 | |
|--------------|---------|---------|
| 韓男1 (27歳) | 男同(27歳) | 女同(27歳) |
| | 男下(25歳) | 女下(25歳) |
| 韓男2 (25歳) | 男同(25歳) | 女同(25歳) |
| | 男下(23歳) | 女下(23歳) |
| 韓女1 (22歳) | 男同(22歳) | 女同(22歳) |
| | 男下(21歳) | 女下(20歳) |
| 韓女2 (21歳) | 男同(21歳) | 女同(21歳) |
| | 男下(20歳) | 女下(20歳) |

録音は3つのタスクを与えた上で行なった¹⁴⁾。最初の10分は、基準者と相手が共同でカードを三角形に積み上げてお城を作るカード積み上げゲームを行なうように指示し、続く10分は一人が板を持って立ち、もう一人がその板の上に紙コップを高く積み上げる紙コップ積み上げゲームを行なうように指示した。最後の10分は自由に話すように指示したが、適当な話題がない場合は小学校から高校までの学生時代のエピソードについて話し合うように指示した。最初のカード積み上げゲームと二番目の紙コップ積み上げゲームは、普通の雑談では現れにくい命令文と勧誘文を誘導するための設定で、また録音していることを意識させないための設定でもある。すべての録音時間は日本語と韓国語それぞれ約480分である。収集したデータは書き起こし作業を通して文字化した。書き起こし作業は、概ね宇佐美(2007)に従って行なった¹⁵⁾。

13) 基準者の出身地はいずれもソウルである。韓男1のグループは2011年8月、韓女1のグループは2011年7月、韓男2のグループは2012年4月、韓女2のグループは2011年9月に録音を行なった。

14) スピーチレベルシフトの現れ方は発話の文の種類が影響を与えている可能性がある。しかし、本調査の前に行なった予備調査により、自由談話では命令文と勧誘文といった行為要求文はほとんど現れないことが確認できた。本調査では、協同して遂行しなければならないタスクを課し、命令文や勧誘文が現れやすく、最後に自由に話させることで自由談話のデータも確保できるようにした。

15) 宇佐美(2007)では1発話文の終わりに「。」をつけることになっている。本稿でも宇佐美(2007)に従うが、韓国語は「。」の代わりに「.」を、「、」の代わりに「,」をつけることにする。また、「#」は

次に考察対象とする形式について説明する。日本語は「です・ます」で現れた発話を丁寧体とする。「です・ます」で現れる発話には、「きれいです」のような言い切り文と、「きれいですから」のような非言い切り文がある。「きれいですから」は従属節のみで終結した文である点で「きれいです」と違いが見られるが、「きれいだから」に対する丁寧体であるため、このような発話もアップシフトとしてカウントする。韓国語は、hapnita体とhayyo体に属する終結語尾で現れた発話を丁寧体の言い切り文とし、体言や副詞、連結語尾に聞き手への敬意を表す補助詞‘요’が付加した発話(例: 학교요, 조금요, 예뻐서요)を非言い切り文とする¹⁶⁾。

実際の例をあげて、どのように発話数をカウントしたか説明する。本稿では基準者の発話のみを対象とした。自然会話においては数字が付されているのが基準者である。(1)は日女2と同年齢の男性(=男同)の会話で、男同が自分の専門であるスポーツ医療について説明している場面である。

(1)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|--------------------------|
| 482 | 日女2 | スライド？。 |
| 483 | 男同 | あるじゃん、あのなんかパワーポイントみたいな。 |
| 484 | 日女2 | あ、うんうんうん。 |
| 485 | 男同 | あれで、うん、親指がとれてる写真とかもあるし…。 |
| 486 | 日女2 | え？なに、それ？。 |
| 487 | 男同 | だから親指…。 |
| 488 | 日女2 | 医学ですか？。<笑い> |
| 489 | 男同 | なんで笑う？。 |
| 490 | | スポーツ医療だから、一応。 |
| 491 | 日女2 | すげえ。 |

聞き取り不能であったことを表す。

- 16) 李吉鎔(2003)は非丁寧体を対象とし、言い切り文と非言い切り文を次のように分類している。「若い。」「人生は長い。」のような用言終了型を言い切り文、「百八十円。」「日本と韓国同じ値段。」のような体言終了型、「全部で九人だったので…。」のような接続助詞終了型、「食事は誰が作るんですか？—まあ、母が。」のような中途終了型を非言い切り文としている。李吉鎔(2003)を参考に韓国語の非丁寧体を分類すると、「먹어.」「먹지.」「먹는다.」のようにhayyo体とhanta体に属する終結語尾で現れた発話は言い切り文、「지금 뭐 해?—숙제/ 지금 바빠?—조금. / 어제 왜 쉬었어?—아파서.」のように体言や副詞、連結語尾で終了した発話や「어디 가?—잠깐 슈퍼에.」のような中途終了型発話は非言い切り文に該当する。本稿では丁寧体の言い切り文と非言い切り文も李吉鎔(2003)を参考に分類した。

(1)の基準者である日女2の発話を見てみると【発話482】は体言終了、【発話484】は感嘆詞、【発話486】は体言終了、【発話488】は丁寧体、【発話491】は非丁寧体となっている。本稿では、これらを丁寧体の言い切り文が1例、非丁寧体の言い切り文が1例、非丁寧体の非言い切り文が2例とカウントし、感嘆詞は分析対象から外した¹⁷⁾。また、日本語における命令の「なさい」と確認の「でしょう」も分析対象から除外する。「食べなさい」は「食べろ」に対する丁寧体であるが、丁寧体を使うべき相手には使えないためである。確認を表す「でしょう」も「だろう」に対する丁寧体であるが、その待遇度・丁寧度は他の丁寧体と異なるため、分析の対象から外す。

4. 分析結果

今回のデータで非丁寧体の会話に現れた丁寧体の発話数は、日本語が100例(映画：25例、自然会話：75例)で、韓国語が28例(映画：5例、自然会話：23例)であった。以下では、実際の例をあげながらどのような状況でアップシフトが行なわれたのか見ていく。

まず、(2)は日男1と同年齢の女性の会話で、カード積み上げゲームを終了し、二番目の紙コップ積み上げゲームに移る時、日男1の発話でアップシフトが見られた。

(2)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|---------------------------|
| 284 | 日男1 | 不器用だね。 |
| 285 | 女同 | いや、そんなことないよ。 |
| 286 | 日男1 | いやいやいや、説得力ねーし。 |
| 287 | 女同 | ほんとそんなことない [タイマーが鳴る音]、あー。 |
| 288 | 日男1 | しゅーりよー。 |

17) データの中で、感嘆詞「はい」の後に丁寧体へアップシフトした例が1例見られた。

例) 日男2：うん、本大好きだもん。

男下：『本のタイトル』とか持ってないすか？

日男2：「作家の名前」、そんな好きじゃないんで、はい。ってか、器用っすね。

俺、ここまでできた人初めてみた。

上記の例では「ってか、器用っすね」の直前の発話で「はい」が用いられている。「はい」を「うん」の丁寧な形とすると、「作家の名前」、そんな好きじゃないんで、はい。」で既にアップシフトが行なわれたと解釈することもできる。本稿では感嘆詞は考察対象としないため、上記の例は除外した。

| | | |
|-----|-----|---------------|
| 289 | 女同 | しゅー…、えー。 |
| 290 | 日男1 | ここから第二ラウンドです。 |
| 291 | 女同 | 難しいな。 |
| 292 | | これちょっと家で練習しよ。 |

ゲームをしながら、相手の不器用さについて話していた日男1がゲームの終了時間を知らせるタイマー音を聞いて、二番目のゲームに移ることを発話する際に丁寧体を用いている。日男1はそれまで一緒にゲームを楽しむ仲間として話していたが、一時的に仲間という立場を離れ、会話とゲームをリードする基準者として、状況が変わることを丁寧体を用いて改まった態度で明示している¹⁸⁾。日男1は、【発話290】で前の状況(一番目のゲーム)と次の状況(二番目のゲーム)を区切っており、ゲームがスムーズに進むように基準者としての役割を果たしているといえる。

同様の例は韓国語でも見られた。韓国語のアップシフトはhapnita体とhayyo体の2つによって実現されるが、話し手が基準者として場面の切り替えを明示する際にはその両方によるシフトが見られた。(3)は韓男1と同年齢の男性の会話で、紙コップ積み上げゲームからフリートークに移る時にhapnita体へアップシフトをしている。

(3)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|---|
| 460 | 男同 | 8개, 8개 인정. 「8つ、8つ成功。」 |
| 461 | 韓男1 | 8개 인정, 타이 기록. 「8つ成功、タイ記録。」 |
| 462 | | 자, 이제 프리 토크를 10분간 하면 됩니다. 「さあ、これからフリートークを10分間すればいいです。」 |
| 463 | | 지금까지 뭐 프리 토크 했지만. 「まあ、これまでもフリートークをしたけど。」 |
| 464 | 男同 | 야, 그럼 작은 것도 있는데 왜 안 했어? 「おい、小さいのもあったのになんで使わなかったの?」 |
| 465 | 韓男1 | 아, 몰라, 몰라. 「あ、知らない、知らない。」 |

【発話462】は、(2)の【発話290】と同様に話し手が仲間としてではなく、基準者として

18) これはメタ言語表現と呼ばれるもので、西条(1999)によればメタ言語表現は談話の展開において、話し合いの開始や終了など、進め方について明示する際に用いられるとされる。また、木原(2010)はメタ言語表現の発話者はその場でのポジションや内容についての情報量の差によって決められるとしている。

発話したものである。それまではゲームを一緒に楽しむ仲間として話していたが、【発話462】ではhapnita体を使って改まった態度を表し、新しいタスクへ移ることを知らせている。この発話は場面の切り替えを表すためのアップシフトと捉えられる。基準者の前後の発話を確認してみると【461：非・非言切文¹⁹⁾→462：hapnita体→463：非・非言切文→465：hay体】のようにhapnita体の前後に非丁寧体の非言い切り文が挿入されている。会話の基調となっているhay体を0とし、それぞれのアップシフトを変動幅で考えると、hay体からhayyo体へのアップシフトが+1であるのに対し、hay体からhapnita体へのアップシフトは+2となる。(3)ではhapnita体の前後に入った非言い切り文によって+2となる変動幅が緩やかになったと考えられる。

次の例は韓女2と同年齢の女性の会話で、韓女2がカードの片付けを手伝ってくれる相手に対してお礼を言う際にhayyo体へのアップシフトが見られた。

(4)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|---|
| 330 | 韓女2 | 아, 불안해. 「あ、不安定。」 |
| 331 | | /沈黙16秒/ 바로 세워 줘. 「まっすぐに立てて。」 |
| 332 | | [カードが崩れる音] 이제 그만 해야 돼. 「そろそろやめなきゃいけない。」 |
| 333 | | 너무 아깝다. 「本当に惜しいな。」 |
| 334 | | 몇 층이냐?. 「何段なの?」 |
| 335 | | 3, 4, 아..., 더 쌓을 수 있었는데. 「3、4、ああ…、もっと積み上げられたのに。」 |
| 336 | 同女 | [カード、片付ける音] 그래도 3층이나 했잖아. 「でも3段もできたじゃん。」 |
| 337 | 韓女2 | 응, 진짜 짱이다. 「うん、本当にすごい。」 |
| 338 | | 고마워용. 「ありがとうございます。」 |

基準者と同女は非丁寧体でゲームの感想を述べながらカードを片付けていたが、同女がカードを集めて基準者に渡すと基準者はhayyo体を使ってお礼を述べた。【発話337】まで交わされた内容と【発話338】の内容は関連がなく、hayyo体を使った【発話338】は、普通の会話からお礼を述べるという状況の変化を表したものと捉えることができる。

19) スピーチレベルを羅列する際、「丁寧体の非言い切り文」は「丁寧・非言切文」、「非丁寧体の非言い切り文」は「非・非言切文」で表す。

基準者の前後の発話を確認してみると【330：hay体－331：hay体－332：hay体→333：hanta体－334：hanta体→335：非・非言切文→337：hanta体→338：hayyo体】となっており、hay体からhanta体へダウンシフトした後、hayyoへアップシフトしている。会話の基調であるhay体を0として変動幅を見るとhanta体(－1)からhayyo体(+1)へのアップシフトの変動幅は+2となる。hanta体からhayyo体へのアップシフトはhay体からhayyo体へのアップシフトに比べて変動幅が大きい。(3)では、非丁寧体の非言い切り文が挿入されることで変動幅を緩やかにしていたが、(4)の【発話338】では、本来「고마워요(ありがとうございます)」と発音されるべきところを「o」を追加して「고마워용」と発音しており、話し手は丁寧体でお礼を述べながらもその発話が改まりすぎることを回避しつつ、変動幅を調整したと考えられる。

(4)は基準者が相手にお礼を言う韓国語の例であったが、基準者が相手に自分のミスを謝る時にアップシフトを行なった例が日本語で見られた。(5)は日男2と年下の女性の会話である。

(5)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|--------------------------------------|
| 282 | 日男2 | 俺、『映画のタイトル』が見たくてさ。 |
| 283 | 女下 | あ、見ました、この間。 |
| 284 | 日男2 | 見た？。 |
| 285 | 女下 | 行きました。 |
| 286 | 日男2 | どうだった？。 |
| 287 | 女下 | 上手いです。 |
| 288 | 日男2 | おもしろ###。 |
| 289 | 女下 | あれちゃんとギャグが(ああ)ストーリーになってて(へー)面白かったです。 |
| 290 | | あれは一見の価値あります。 |
| 291 | 日男2 | [カードが倒れる音]<溜息をつきながら>すみません。 |

日男2と女下はある映画について話しながらカードを一緒に積み上げていたが、その最中に日男2がカードを倒してしまい、【発話291】のように丁寧体を用いて謝っている。このアップシフトも状況の変化を表すものと捉えることができよう。なお、(4)と(5)のようにお礼や謝罪のことばを述べる際のアップシフトは改まり度が高められ、感謝の気持ちや申し訳ないという気持ちをより明示的に伝えることができる。

次の例は同じ大学に在学している先輩(A)と後輩(B)の会話で、AがBに自分の気持ちを述べる直前の場面である。

(6) A1：はぐちゃん。

B1：うん？

A2：君が浜美に入学して4、5、6、7、8、9…、半年かぁ。早いね。早い。早いよね。光陰矢のごとってね。時は金なりってどうか、命短しってどうか。で、えっと、何が言いたいかっていうと…。言います。僕は…。 『ハチ』

時の速さについて話していたAが告白をする直前にアップシフトを行ない、改まり度を高めている。Aはその後に続く発話が真面目な話であることの前置きとして丁寧体を使用し、相手の注意を引くことを狙ったと考えられる。話し手はアップシフトを通して発話場면을改まったものにし、その状況を真剣な態度で捉えていることを示している。

次の(7)は同年齢の女子大学生(A)と男子大学生(B)の会話で、就職が決まったかというAの質問にBが丁寧体で答えている場面である。

(7) A1：お疲れさん。(缶の飲み物を見せながら) 飲む？

B1：うん。

A2：どっち？

B2：こっち。ありがとう。

A3：就職、決まった？

B3：苦戦してますね。佐藤さんは？ 『虹』

A、Bはともに非丁寧体で会話をしていたが、就職に関するAの質問に対して、Bが答えるときに丁寧体が用いられている。苦戦しているという発話内容からも分かるように、このアップシフトは話し手がその話題をふざけることのできないものとして捉えていると解釈できる。

次の例は、FTAに当たる発話で丁寧体へのアップシフトが見られたものである。(8)は日男1と年下の女性の会話で、後輩である女下が数日前に見たテレビ番組について話しながら、日男1の意見を聞く場面である。

(8)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|----------------------------------|
| 600 | 女下 | えー、じゃあ(うん)、一昨日(うん) 『TV番組名』見ました？。 |
| 601 | 日男1 | 見てない。 |

| | | |
|-----|-----|-------------------------------------|
| 602 | 女下 | え、なんか、浮気についてだったんですよ。 |
| 603 | 日男1 | はいはいはい。 |
| 604 | 女下 | で一、なんか、男はみんな浮気するものだみたいな。 |
| 605 | 日男1 | うん。 |
| 606 | 女下 | それについてどう思いますか？。 |
| 607 | 日男1 | え、あのねー、これねー、俺本気でしょうがないと思う。 |
| 608 | 女下 | なんですか？。 |
| 609 | 日男1 | それはですねー、あの一。 |
| 610 | 女下 | しちゃうんですか、やっぱり。 |
| 611 | | え、じゃ、「日男1の名前」さんもするんですか？。 |
| 612 | 日男1 | あの一、ちょっと聞いて。 |
| 613 | | なんか、生物学的に（うん）考えると、まあ人間も生き物じゃないですか？。 |
| 614 | 女下 | そうですね。 |
| 615 | 日男1 | だから生物学的に考えてだよ。 |

(8)では【発話607】の「あのねー」、「これねー」、【発話609】、【発話612】の「あの一」で見られるように言いよどみが多い。日男1は相手が不満に思うテレビ番組の内容と同じ意見を述べようとしており、ここで見られたアップシフトは相手の期待に沿わない応答への配慮の表しであると同時に、意見の不一致によって生じかねない気まずさを和らげるためのFTAの補償と解釈できる。特に【発話613】では「～じゃないですか」を用いて相手に同意を求めており、自分の意見が相手に受け入れられるようにしている。

FTAの補償をする際にアップシフトする例は韓国語でも見られた。

(9)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|---|
| 746 | 韓女2 | 거꾸로네, 다른 애들이랑. 「逆だね、他の人と。」 |
| 747 | 女下 | 네, 뭔가를 잘... 「はい、なんかよく...」 |
| 748 | 韓女2 | 허어, 우리는 「人名」이 그렇게 불편해요, 하아. 「へえ、私たちは「人名」といって居心地が悪くてしょうがないんですよ、ああ。」 |
| 749 | 女下 | 진짜요? 「本当ですか？」 |
| 750 | 韓女2 | 응. 「うん。」 |
| 751 | 女下 | 저는 과거 그렇게 불편해요. |

| | | |
|-----|-----|--|
| | | 「私は学科がすごく居心地悪いです。」 |
| 752 | | <웃으면서>저의 진짜 모습이 아니에요. 「<笑いながら>私の本当の姿じゃないんです。」 |
| 753 | 韓女2 | 왜 그래?. 「どうしたの?」 |
| 754 | | 안 그래도 돼. 「そうなくていいよ。」 |

(9)は韓女2と年下の女性の会話で、韓女2が女下と仲のいい友達と自分は合わないということを描く時にhayyo体へアップシフトしている。これは(8)と同様、FTAの補償と解釈できる。丁寧体を2つ有する韓国語の場合、丁寧度・待遇度がより高いhapnita体を用いた方がFTAの補償をより効果的に表すことができると考えられるのに、なぜここではhayyo体が用いられたのだろうか。これにはhayyo体が感情的な態度を表す非格式体であることが関係していると考えられる。hapnita体は相手に対する丁寧度・待遇度が最も高いスピーチレベルであるが、格式体であるため堅苦しい距離感が強調される。韓女2はhayyo体を用いることで、アップシフトによる心的距離の確保を行ないながらも、その距離感が堅苦しいものにならないようにして、FTAを補償していると考えられる。

では、日本語では(9)のような丁寧度・待遇度の調整は見られないのだろうか。次の例を見てみよう。(10)は日男2と同年齢の女性の会話で、紙コップ積み上げゲームの最中にカップの大きさが違うと言いながら、無理な方法でゲームに挑もうとする相手を日男2が阻止する際に丁寧体を用いている。

(10)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|----------------------------|
| 283 | 日男2 | 最後の方がね、そうね、冗談言ってられなくなるんだよ。 |
| 284 | | <軽い笑い>え、やべっ。 [カップが落ちる音] |
| 285 | 女同 | これさ、ちょっと大きき違う。 |
| 286 | 日男2 | <笑いながら>それはちょっと無理っすよ。 |
| 287 | 女同 | 大きき違う。 <二人で笑う> |
| 288 | 女同 | 大きき違うじゃーん。 |
| 289 | 日男2 | お姉さん、それちょっと無理っすね。 |

【発話286】、【発話289】の内容は、いずれも相手が行なおうとしていることを否定するものであり、話し手はFTAに対する補償として丁寧体を用いたと考えられる。特にここで注

目したいのは「です」ではなく「(っ)す」が使用されている点である。なぜここで「(っ)す」が使用されたのか。完全な丁寧体である「です」を使用することで、発話や場面が堅くなりすぎてしまうことを避けるためであったと解釈できる。それは【発話286】では笑いが伴い、【発話289】では相手を「お姉さん」と呼んでいることから発話や場面が堅くなることを避けていることがわかる。

韓国語では相手に説教する時にも丁寧体へのアップシフトが見られた。(11)は韓女2と同年齢の男性の会話で、遅い時間に女の子と会っている男同を目撃した韓女2が、夜に女性と会うことがよくない理由を話しているが、男同はそのことを話題にしたがらない態度を見せている。

(11)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|--|
| 201 | 韓女2 | 그 시간에 나가는 건 진짜 불의야. 「あの時間に会いに行くのは不義（下心丸出し）だよ。」 |
| 202 | | 사람이 말이야. 「人がさー。」 |
| 203 | 男同 | 왜 그래?. 「何?」 |
| 204 | 韓女2 | 밤에 얼마나 감성적이게 되는데…. 「夜になるとすごく感性的になるのに…。」 |
| 205 | 男同 | <웃으면서> 너 자꾸 본인의 이야기를…. 「<笑いながら>あんた、さっきから私の話を…。」 ²⁰ |
| 206 | 韓女2 | 근까 웬만한 여자 안 만나는 게 좋아, 밤에는. 「だからできる限り女の子の人に会わない方がいいの、夜は。」 |
| 207 | | 무슨 일이 벌어질지 몰라요. 「何が起こるか分からないですよ。」 |
| 208 | | 진짜야. 「本当よ。」 |
| 209 | | 괜히 하는 소리가 아니야. 「つまらない小言じゃないの。」 |

韓女2は真剣に注意しているが、男同は【発話205】で見ると笑いながら軽く受け流そうとしている。韓女2は自分の忠告を真剣に受け入れない男同の態度に苛立ちを感じ、男同の話の途中に【発話206】で「근까(だから)」と割り込みながら注意を続け、【発話207】でアップシフトをしている。このアップシフトは、自分の話を真面目に聞かない男同に対

20) ‘본인(本人)’が話し手を指すか、相手を指すか曖昧な発話であるが、この発話の後には「聞かずに勝手に誤解しないで」が省略されていると判断し、「私」という訳を付した。

して心的距離を置きながらも、説教に対して抵抗を見せる相手を考慮したFTAの補償と捉えることができる。

韓国語では催促をする時にもアップシフトが見られた。(12)は韓女2と同年齢の女性の会話で、韓女2は最初、非丁寧体でカードを積み上げるよう話しているが、相手が躊躇していると、hayyo体を用いて作業を促している。

(12)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|----|-----|--|
| 20 | 韓女2 | 먼저 이거 하나를 쌓고, 다음에 내가 그 다음 거를 쌓으면 니가 위에다 얹어 줘. 「まず、これを一つ積み上げて、次に私が、その次のを積み上げたら、あんたが上に載せて。」 |
| 21 | | 알겠지? 「分かった?」 |
| 22 | | 이렇게 이 위에다 얹어 줘, 응, 얹어 줘. 「こんなふうはこの上に載せて。うん、載せて。」 |
| 23 | | 없으세요. 「載せてください。」 |
| 24 | | 오케이, 이런 식으로 하면은(이야~)4층까지 올라가더라고. 「オッケー、こんなふうにすれば(うわー)4段まで上がる。」 |

韓女2が【発話22】で「얹어 줘(載せて)」と2回繰り返しているにもかかわらず、相手がカードを載せないでいたため、hayyo体にアップシフトをさせながら相手にカードを載せるよう催促している。話し手は【発話23】で「없으라니까(載せてってば)」のように苛立ちを込めて言うことも可能であるが、ここでは敢えて丁寧体を用いることで、FTAの補償を行なっていると考えられる。

(8)から(12)までの例は、話し手と相手の意見の食い違いによるFTAを補償するためにアップシフトを行なったものであった。しかし、意見が食い違う場面におけるアップシフトが常にFTAの補償として機能しているわけではない。次に見る(13)は同年齢の女子大学生(A)と男子大学生(B)の会話で、Bが好きな女の子と同じお店で働きたい気持ちから、その女の子の同僚であるAに1万円あげるから自分とアルバイト先を変えてほしいとつくづく頼んでいる場面である。

(13) A1 : だからって何で私があそこを辞めなきゃなんないのよ。何だ、この話? ありえないでしょ? どういう脳ミソしてるの、あんた?

B1 : でも悪い話じゃないだろ?

A2：ない、ない、ありえない。お願いだからちょっといなくなってもらっていいすか？

『虹』

Aの発話を見てみると、Bに「あんた」という二人称代名詞を使いながら、相手の提案に対して「ありえない」、「どういう脳みそしているの？」と話しており、相手に対する不快感や苛立ちを隠すことなく表出している。その後、「お願いだからちょっといなくなってもらっていいすか？」とアップシフトを行なっているが、丁寧体を用いているのにもかかわらず、この発話から相手に対する配慮や改まった態度は読み取れない。これはFTAの補償ではなく、FTAの強化と捉えられる²¹⁾。なお、アップシフトした発話に「(っ)す」を用いている点は(10)と同じであるが、FTAの補償として機能していた(10)の「(っ)す」とは異なり、(13)の「(っ)す」は発話が丁寧なものになるのを避け、相手をぞんざいに扱っていることの表れと解釈できる²²⁾。

韓国語でも(13)と類似したシフトが見られた。(14)は同年齢の男子大学生(A)と女子大学生(B)の会話で、Aがテコンドーの試合を控えて体重減量のためグラウンドを走っている場面である。そこに幼なじみのAが現れてBをからかい、それに不快感を抱いたAが相手を突き放す目的からアップシフトを行なっている。

(14) A1：야, 물 좀 줘. 죽을 거 같애.

「おい、ちょっと水くれ。死にそうだ。」

B1：너 영훈이랑 붙는 거 무서워서 체급 낮춘 거지?

「あんた、ヨンフンと試合するのが怖くて体級（体重別階級）下げたんでしょ？」

A2：니 맘대로 생각하세요.

「お前の好きなように考えてください。」

『청춘』

アップシフトをしたA2の発話には「お前」に相当する二人称代名詞「니(=네)」と、「お～になる」に当たる主体尊敬を表す「-시-」が使われている。丁寧体を用いるだけでなく、「お前」に当たる二人称代名詞と主体尊敬を使用し、発話のバランスを崩すことで、相手に心的距離を置き、突き放した態度を明確に表している。

以上、(8)～(14)を通してFTA場面で現れたアップシフトを観察してきた。FTA場面での

21) 三牧(1997)は、FTA場面におけるアップシフトについて、「丁寧さ・改まり」を強調する場合はFTAの補償に、「へだたり」を強調する場合はFTAの強化になると述べた。

22) 尾崎(2004)は「(っ)す」について20代を中心とする若年層の男性の間でよく用いられると指摘しているが、(13)のように女性が用いる場合も見られた。

アップシフトはいずれも対人関係に関連する点で共通しているが、FTAの補償として機能する場合、FTAの強化として機能する場合があることが分かった。

次に、FTAの場面以外の対人関係に関する例を見てみよう。(15)は日男2と年下の男性の会話である。

(15)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|---|
| 496 | 日男2 | どういう系の女の子が好きなの？。 |
| 497 | 男下 | いいんですか？。 |
| 498 | 日男2 | うん。 |
| 499 | 男下 | そうですね。 |
| 500 | | いや、まあ、普通に可愛い子は好きなんですけど、(うん)可愛い子と付き合うと絶対にいいことがないので…。 |
| 501 | | 外見から(そっ)、外見から入って成功したことが一度もない。 |
| 502 | 日男2 | あっ、それはそうですね、それはそうですね。 |
| 503 | 男下 | <笑い> |
| 504 | 日男2 | おっしゃる通りですね、はい。 |
| 505 | 男下 | なので、僕は話してから入りますね。 |

ここでは日男2が男下の【発話500】と【発話501】を受けて、それに同意していることを表す時にアップシフトが行なわれた。特に【発話504】では「おっしゃる」という尊敬語を使いながら、相手の発言に対する同意を強く表そうとする話し手の意図が窺える。この発話を非丁寧体で表すと、軽いあいづちのように捉えられる可能性がある。話し手は丁寧体を用いることで、その発話を非丁寧体の会話の中から際立たせ、同意していることが明確に伝わるようにしたと考えられる。

次の例は、日男2と同年齢の男性との会話で、ここでは相手と一緒にふざける際にアップシフトが行なわれた。

(16)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|----|-----|--------------|
| 6 | 日男2 | はっはい、始めましょう。 |
| 7 | | 先生、メス。 |
| 8 | 男同 | <笑い>違う、違う。 |
| 9 | | そっちでいいの？。 |

| | | |
|----|-----|--------------------------------------|
| 10 | | なんかそっち使ったらしいよ。 |
| 11 | 日男2 | じゃ、こっち###。 |
| 12 | 男同 | でも、まあ、色的に、デザイン的にそっちの方がいいけど。 |
| 13 | 日男2 | ゴッホだからね。 |
| 14 | 男同 | <笑い>ほら、これしっかりしてるから。 |
| 15 | | 君、支える？。 |
| 16 | 日男2 | あ、俺が支えます、はい。 |
| 17 | 男同 | うん、いや、君が載ってくれた方がいいじゃん。 |
| 18 | | 俺がこういうふうに立てるからさ、君一、この上に (はい) 1枚載っける。 |
| 19 | | /少し間/ あ、君持った方がいいな。 |
| 20 | 日男2 | そうですね、はい。 |
| 21 | 男同 | <笑い>たっ、立てられる？。 |
| 22 | | そうそうそう、いいよー。<笑い> |

【発話6】は録音とゲームを始める合図として、基準者の立場から発話されたものである。

【発話6】の直後、日男2は医者を手伝う助手の真似をし、それに応じる形で男同が普段は使わない「君」という代名詞を用いながら、日男2に同調している。「君」という代名詞が用いられた発話の応答として【発話16】と【発話20】でアップシフトしており、一緒にあるキャラクターを演じながらふざけている²³⁾。

この他、相手のアップシフトに合わせて自分のスピーチレベルをアップシフトさせた例も見られた。(17)は日男2と同年齢の男性の会話である。紙コップ積み上げゲームを何度も失敗している状況で、男同がお酒を飲んで今の苛立ちを解消しようと冗談めかしてふざける際に丁寧体を用いている。日男2もまた、それに同調して丁寧体へのシフトを行なっている。

(17)

| 番号 | 話者 | 発話 |
|-----|-----|-----------------------|
| 589 | 日男2 | やばい。 |
| 590 | 男同 | ###、落ちそう、落ちそう。 |
| 591 | | 1、2、3、4段目と3段目の間が…。 |
| 592 | | そうそうそうそうそうそうそうそうそうそう。 |
| 593 | 日男2 | だあー。 [↑] |
| 594 | | うーん。 |

23) 大津(2007)で類似した考察が見られる。

| | | |
|-----|-----|--------------------|
| 595 | 男同 | うーん。[カップ落ちる音] |
| 596 | 日男2 | ちょっと待って。 |
| 597 | 男同 | とりあえず一杯やりますか？。〈笑い〉 |
| 598 | 日男2 | やっちゃいますか？。 |

男同の「一杯やりますか」という発話が答えを必要とする勧誘であったことが基準者である日男2のアップシフトに影響を与えた可能性が考えられる。日男2は、相手の丁寧体による冗談に自分のスピーチレベルを合わせて応答しており、これは話し手が相手との心的距離を縮めるために行なったものだと解釈できる。

5. 考察

4節ではどのような状況でアップシフトが行なわれたかを観察してきた。各状況とそれぞれの言語でアップシフトが確認されたかどうかをまとめたものが〈表3〉である(それぞれの言語で確認されたものを例文番号で記す)。

〈表3〉日韓語でアップシフトが見られた状況と該当する例文の番号

| 状況 | 日 | 韓 |
|--------------------------------|-------|-----|
| (a) 場面の切り替えを表す時 | 例2 | 例3 |
| (b) お礼や謝罪のことは述べる時 | 例5 | 例4 |
| (c) 発話場面や話題を真面目な態度で捉えていることを表す時 | 例6,7 | |
| (d) 相手との意見の不一致や言動への不同意を表す時 | 例8,10 | 例9 |
| (e) 相手に説教する時 | | 例11 |
| (f) 相手を催促する時 | | 例12 |
| (g) 相手に対する不快感から相手を突き放す時 | 例13 | 例14 |
| (h) 相手の意見に強く同意する時 | 例15 | |
| (i) ふざけたり冗談を言ったりする時 | 例16 | |
| (j) 相手のスピーチレベルに同調する時 | 例17 | |

ここでは、特に際立った特徴について述べる。まず、FTAの場面であった(d)~(g)のうち、(d)、(g)では両言語ともにアップシフトが見られた。さらに、そのアップシフトが(d)ではFTAの補償として、(g)ではFTAの強化として機能している点でも類似性が見出された。次に、

日本語でのみ観察された状況(c)のうち、先輩から後輩への告白の場面(例6)で見られたアップシフトについてである。例(6)のような私的な場面で、かつ普段非丁寧体を使用する先輩が後輩に対して、どんなに改まった態度を見せる必要があっても韓国語ではアップシフトをする可能性は低い。韓国では年齢による上下関係を重視し、話し手と聞き手との年齢差がことば遣いに影響を与えるためである。この点は日本語と韓国語のアップシフトの現れ方の違いと言えるだろう。最後に、日本語では相手との意見の不一致や言動への不同意を表す場合(d)と、相手の意見に強く同意する場合(h)のように、相反する状況でアップシフトが見られた。このような現れ方は韓国語では見られなかったことも両言語の相違点としてあげられる。

さて、〈表3〉の(a)~(j)は関連のない状況の羅列に見えるが、大きく二つに分類することができる。一つは話し手が改まった態度で発話場面を捉えていること(a~c)を表すものであり、もう一つは話し手が相手との心的距離をどのように捉えているかを表しているもの(d~j)である。この二分類はメタメッセージと談話行動について論じた熊取谷(1994)でも言及されている。同研究は、非丁寧体の会話における丁寧体をメタメッセージの一つとして捉えた研究である。熊取谷(1994)は、メタメッセージとは発話の命題内容がどのような意図の元で発せられたかを伝達するメッセージであり、現行場面や後続する場面がどのような性質のものかを規定するものと、発話者自身についてあるいは発話者が聞き手との関係について、どのように捉えているかを伝えるものに分けられるとした。その中で、非丁寧体の会話における丁寧体は「私は現在の言語使用状況をかきこまった場面であると捉えている(熊取谷1994:223)」という状況規定のメタメッセージと、「あなたとの間に距離を置きたい(現時点で、あなたを「うち」扱いしない)(熊取谷1994:223)」という対人関係規定のメタメッセージを表すと述べた。

熊取谷(1994)の指摘と本稿での結果を比較してみると、熊取谷(1994)は丁寧体にシフトした発話のうち、対人関係規定のメタメッセージを相手との距離を置くものとして捉えているが、本稿の結果では(h)~(j)のように心的距離を縮めるためのアップシフトが観察された点で違いを見せる。熊取谷(1994)を援用し、〈表3〉を再構成すると以下ようになる。

A. 状況規定

- (a) 場面の切り替えを表す時 (日・韓)
- (b) お礼や謝罪のことばを述べる時 (日・韓)
- (c) 発話場面や話題を真面目な態度で捉えていることを表す時 (日)

B. 対人関係規定

1. 心的距離の拡大

- (d) 相手との意見の不一致や言動への不同意を表す時 (日・韓)

(e) 相手に対する不快感から相手を突き放す時 (日・韓)

(f) 相手に説教する時 (韓)

(g) 相手を催促する時 (韓)

2. 心的距離の縮小

(h) 相手の意見に強く同意する時 (日)

(i) ふざけたり冗談を言ったりする時 (日)

(j) 相手のスピーチレベルシフトに同調する時 (日)

本稿で観察してきた日韓語のアップシフトは、状況規定に関するもの(A)と対人関係規定に関するもの(B)に分類できた。話し手がその状況を改まった態度で捉えていることを表す例はAに、話し手が相手との心的距離をどう捉えているかを表す例はBに属する。さらにBは心的距離を置くもの(B-1)と、心的距離を縮めるもの(B-2)に分けられ、丁寧体へのアップシフトが必ずしも心的距離の拡大を表すわけではないことが明らかになった。

今回のデータでは、B-2に当たる例は日本語でしか見られなかったが、2節で概観したように、韓国語の非丁寧体の会話でも冗談を言う時に丁寧体へのアップシフトが見られる(장은숙2005)と指摘されていることから、B-2は韓国語でもあり得る現れ方である。これについては今後データを増やし、再分析を行ないたいと考える。

6. おわりに

本稿では映画のシナリオと自然会話をデータとし、日韓語の非丁寧体の会話においてどのような時に丁寧体へのアップシフトが現れるかを状況別に考察した。両言語あわせて10通りの状況でアップシフトが見られ、これらの状況を熊取谷(1994)の考察を援用することで、「話し手が改まった態度で発話場面を捉えていることを表すもの」と、「相手との心的距離をどのように捉えているかを表すもの」の2つに分類することができた。ただし、熊取谷(1994)は日本語のアップシフトが、話し手が相手に対して心的距離を拡大する時に見られると指摘したが、本稿の結果により、心的距離を縮める時にもアップシフトが見られることが明らかになった。日韓語は、FTA場面でアップシフトが見られる点、そのアップシフトがFTAの補償としてもFTAの強化としても機能している点で共通していた。丁寧体と非丁寧体をそれぞれ複数有する韓国語ではアップシフトの現れ方も複雑であったが、日本語でも「です」

以外に「(っ)す」を用いることで発話の待遇度・丁寧度の調節を行っていた。一方、いくつかの相違点も見られた。日本語では相手の意見に対して不同意を表す時にも、同意を表す時にもアップシフトが見られたが、韓国語では相反する状況でのアップシフトは見られなかった。また、韓国語は年齢差による上下関係を重視し、それがことば遣いに反映されるという理由により、年下に対するアップシフトが日本語と異なって現れる可能性が窺えた。

本稿は日韓語におけるアップシフトの現れ方の一部を記述したに過ぎない。今回、日本語でのみ見られたアップシフトの中には、韓国語で現れ得るものも見られ、その逆も十分考えられる。今後は、より多様な人間関係と場面を考察するためにデータ量を増やしていく。そして本稿を補完する形で両言語におけるアップシフトの共通点と相違点を明らかにしていきたいと考える。

【参考文献】

- 강은숙(2005) 「한국어 모어화자의 화계 변동에 관한 연구－사회적 관계와 친밀도를 중심으로－」 연세대학교교육대학원 석사논문
- 국립국어원(2005) 『외국인을 위한 한국어 문법1－체계 편－』 Communication Books
- 유송영(1996) 「국어 청자 대우 어미의 교체 사용(switching)과 청자 대우법 체계－힘(power)과 유대(solidarity)의 정도성에 의한 담화 분석적 접근－」 고려대학대학원 박사논문
- 이정복(2001) 『국어 경어법 사용의 전략적 특성』 태학사
- 한길(2002) 『현대 우리말의 높임법 연구』 역락
- 李恩美(2008) 「日本語と韓国語の初対面二者間会話における対人配慮行動の対照研究－ディスコース・ポライトネス理論の観点から－」 東京外国語大学大学院 博士論文
- 李吉鎔(2003) 「フォーマルな談話での非デスマス形式の切換え－日本語母語話者と中間言語話者の比較－」 『阪大社会言語学研究ノート』 5, 大阪大学, pp.79-96.
- 生田少子・井出祥子(1983) 「社会言語学における談話研究」 『言語』 12, 大修館書店, pp.77-84.
- 宇佐美まゆみ(2001) 「「ディスコース・ポライトネス」という観点から見た敬語使用の機能－敬語使用の新しい捉え方がポライトネスの談話理論に示唆すること－」 『語学研究所論集』 6, 東京外国語大学, pp.1-29.
- 宇佐美まゆみ(2007) 『改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese : BTSJ) 2007年3月31日改訂版』
- 大津友美(2007) 「会話における冗談のコミュニケーション特徴－スタイルシフトによる冗談の場合－」 『社会言語科学』 10-1, 社会言語科学会, pp.45-55.
- 尾崎喜光(2004) 「新しい丁寧語「(っ)す」」 『男性のことば・職場編』 ひつじ書房, pp.89-98.
- 吳泰均(2010) 「日本語聞き手待遇表現の語用論的機能－丁寧体選択におけるストラテジーの関与－」

- 『北海道大学大学院文学研究科研究論集』10, 北海道大学, pp.133-159.
- 木原郁子(2010) 「話し合いの進行に関わるメタ言語表現－参加者の相互関係の観点から－」 『일본 문화연구』 34, 동아시아일본학회, pp.485-502.
- 金珍娥(2002) 「日本語と韓国語における談話ストラテジーとしてのスピーチレベルシフト」 『朝鮮学報』 183, 朝鮮学会, pp.51-91.
- 熊取谷哲夫(1994) 「メタメッセージと母語話者・非母語話者の談話行動」 日本研究京都会議配布資料, pp.231-239.
- 嶋原耕一(2014) 「母語場面及び接触場面の同等初対面会話におけるアップシフトについて」 『社会言語科学』 16-2, 社会言語科学会, pp.66-74.
- 申媛善(2007) 「日本語と韓国語における文末スタイル変化の仕組み－時間軸に沿った敬体使用率の変化に着目して－」 『日本語科学』 22, 国立国語研究所, pp.173-195.
- 西条美紀(1999) 『談話におけるメタ言語の役割』 風間書房
- 日本語記述文法研究会編(2009) 『現代日本語文法7 第12部談話 第13部待遇表』 くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則(1992) 『基礎日本語文法 改訂版』 くろしお出版
- 三牧陽子(1993) 「談話の展開標識としての待遇レベル・シフト」 『大阪教育大学紀要第 I 部門』 42-1, 大阪教育大学, pp.39-51.
- 三牧陽子(1997) 「対談におけるFTA補償ストラテジー－待遇レベル・シフトを中心に－」 『多文化社会と留学生交流：大阪大学留学生センター研究論集』 1, 大阪大学, pp.59-78.
- Brown, Penelope and Levinson, Stephen C. (1987) *Politeness : Some universality in language usage* : Cambridge University Press. (田中典子監訳, 齊藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野寿憲・山下早代子訳(2011) 『ポライトネス言語使用における,ある普遍現象』 研究社)

| |
|--------------------------|
| 논문 투고 일자 : 2016. 12. 25. |
| 논문 심사 일자 : 2017. 01. 21. |
| 게재 확정 일자 : 2017. 01. 22. |

 < 要旨 >

非丁寧体の会話におけるアップシフトに関する日韓対照研究

金アラン

本稿では、映画のシナリオと自然会話をデータとし、日韓語の非丁寧体の会話においてどのような時に丁寧体へのアップシフトが現れるかを状況別に考察した。その結果、話し手が改まった態度で発話場面を捉えていることを表す時と、話し手が相手との心的距離をどのように捉えているかを表す時にアップシフトが行なわれることが分かった。これまで日本語におけるアップシフトは、話し手が相手に対する心的距離を拡大する時に見られると指摘されてきたが、本稿の結果により、心的距離を置く時だけでなく、心的距離を縮める時にもアップシフトが見られることが明らかになった。日韓語は、FTA場面でアップシフトが見られる点、そのアップシフトがFTAの補償としても、FTAの強化としても機能している点で共通していた。丁寧体と非丁寧体をそれぞれ複数有する韓国語ではアップシフトの現れ方も複雑であったが、日本語でも「です」以外に「(っ)す」を用いることで発話の待遇度・丁寧度の調節を行っていた。一方、いくつかの相違点も見られた。日本語では、相手の意見に対して不同意を表す時にも、同意を表す時にもアップシフトが見られたが、韓国語では相反する状況でのアップシフトは見られなかった。また、韓国語は年齢差による上下関係を重視し、それがことば遣いに反映されるという理由により、年下に対するアップシフトが日本語と異なって現れる可能性が示唆された。

 Contrastive Study into Up-Shifts
 in Non-Polite Conversation in Japanese and Korean

Kim, Ah-Ran

This study examines when up-shifts to polite speech appear during non-polite conversations shown in Japanese and Korean film scenes and natural conversations. The results reveal that up-shifts occur when the speaker tries to express the fact that he/she considers the utterance scene with a formal attitude and to establish psychological distance from the addressee. Although up-shifts in Japanese are presumed to increase the psychological distance between the speaker and the addressee, this study presents evidence that up-shifts can occur to create and reduce psychological distance. Japanese and Korean share common ground regarding up-shifts in FTA situations, and they function as compensation for or intensification of FTA. Korean has multiple forms of polite and non-polite speech, which complicates how up-shifts manifest themselves; however, even in Japanese, treatment and politeness of utterances are adjusted using 'desu' and 'su'. Furthermore, there were several differences. In Japanese, up-shifts occur during both agreements and disagreements with the addressee's opinions; however, up-shifts did not occur in reciprocal situations in Korean. Since Korean emphasizes the importance of age-based hierarchical relationships and this aspect is reflected in the language usage, it is suggested that up-shifts when speaking with those who are younger than the speaker might appear differently than in Japanese.